

2017年（平成29年） 9月29日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

9/14~9/20のNYMEX・WTIは、49.48~50.41ドルの範囲で推移、50ドル台を回復した。

9月21日は、翌日のOPEC・非OPEC合同監視委員会を前に、神経質な売り買いの中、前日の50ドル台回復を受け、利益確定売りなどが出て、わずかに反落した。この日から取引の中心となった11月限の終値は前日比0.14ドル安の50.55ドルだった。

週末22日は、ウイーンでOPEC・非OPEC閣僚級合同監視委員会が開催され、原油相場の50ドル台回復を理由に、協調減産延長の勧告は先送りされたものの、同日発表のペカーヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数は744基（前週比5基減）と3週連続の減少になるなど、需給均衡への期待感は根強く、わずかに反発した。11月限の終値は前日比0.11ドル高の50.66ドルだった。

週明け25日は、最近の需給の引き締め感に加え、北部クルド自治政府が独立の是非を問う住民投票を強行、イラク中央政府をはじめトルコやイランもこれに反発しており、自治政府支配下のキルクク油田からの供給懸念の高まりもあり、大幅続伸、4月18日（52.41ドル）以来の高値を付けた。11月限の終値は前週末比1.56ドル高の52.22だった。

26日は、前日の高値への反動から、利食い売りなどが相次ぎ、反落した。ただ、トルコのエルドアン大統領がキルクク油田からのトルコ経由パイプラインの停止を警告するなど、イラク北部のクルド独立問題による地政学リスクが下値を支える形となった。11月限の終値は前日比0.34ドル安の51.88ドルだった。

27日は、EIAの米国在庫週報で、原油在庫が事前の予想

に反して減少したことなどから反発した。11月限の終値は前日比0.26ドル高の52.14ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、前週53.50~53.90の範囲で推移した。9月21日54.60ドル、22日54.90ドル、25日54.90ドル、26日57.00ドル、27日56.30ドルで推移した。

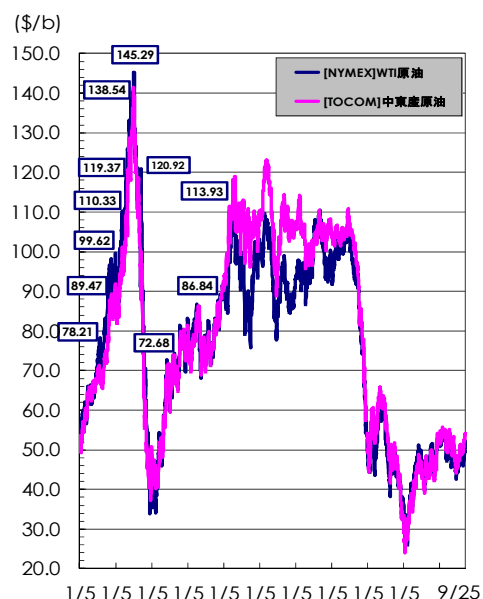
為替は、前週110.21~111.63円の範囲で推移した。9月21日112.53円、22日は112.24円、25日112.53円、26日111.55円、27日112.39円で推移した。

財務省が28日発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は、34,868円/klとなり、前旬を633円上回った。ドル建てでは7旬振りに50ドル台を回復し50.62ドルで前旬比1.21ドル高。為替レートは1ドル/109.53円。

主要元売会社の10月第1週に適用する卸価格は、全社ガソリン・軽油が1.5円、灯油が1.5~2.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、9月27日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.7円の値上がり、軽油は同0.7円の値上がり、灯油は同0.3円の値上がりだった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は6カ月振りの値上がりだった。この週（9月第4週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、全社1.0円の値上がりとなった。

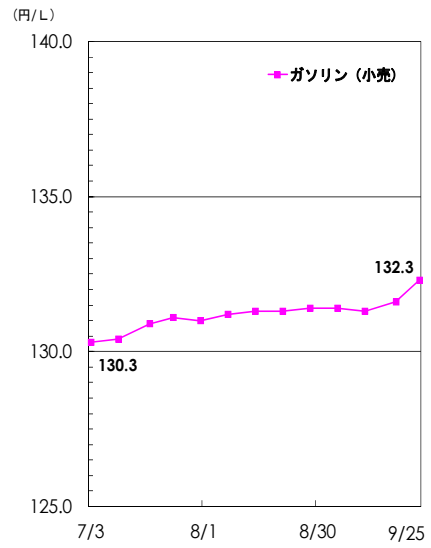
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/17 ~ 9/23	3,564 ▼ -15	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.0 ▼ -0.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/23	12,568 ▼ -1,238	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	9/25	54.25 ▲ 0.32	▲ 10.5
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	9/25	52.22 ▲ 2.31	▲ 6.3
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	9月上旬	50.62 ▲ 1.21	▲ 5.10
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	34,868 ▲ 633	▲ 5,698
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.53 ▲ 0.62	▼ -7.66
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/25	113.53 ▼ -1.07	▼ -11.78



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/17 ~ 9/23	983 ▲ 3	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	977 ▲ 82	▲ -	
	輸出	"	78 ▲ 57	▲ -	
	在庫	9/23	1,704 ▼ -72	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/19 ~ 9/25	51.8 ▲ 1.1	▲ 10.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/19 ~ 9/25	52.8 ▲ 1.5	▲ 12.6
		(TOCOM/中部)	9/25	52.5 ▲ 1.4	▲ 12.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	132.3 ▲ 0.7	▲ 9.5	

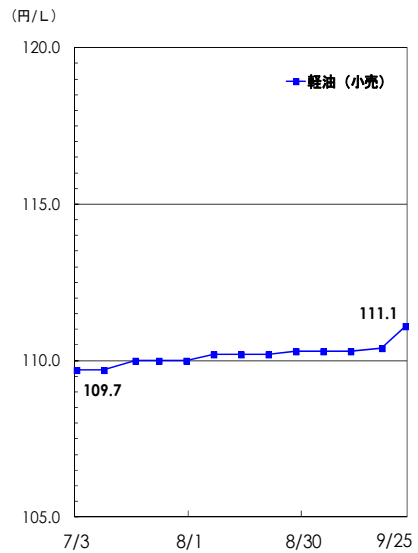
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

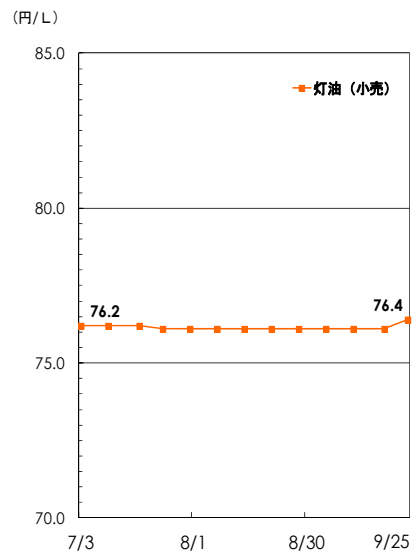
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/17 ~ 9/23	824 ▲ 79	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	592 ▼ -7	▼ -	
	輸出	"	114 ▼ -124	▼ -	
	在庫	9/23	1,527 ▲ 118	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/19 ~ 9/25	50.1 ▲ 1.2	▲ 11.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/19 ~ 9/25	49.0 ▲ 0.7	▲ 10.5
		(TOCOM/中部)	9/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	111.1 ▲ 0.7	▲ 8.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/17 ~ 9/23	221 ▲ 11	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	153 ▲ 30	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -37	▶ -	
	在庫	9/23	2,447 ▲ 69	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/19 ~ 9/25	51.1 ▲ 1.7	▲ 14.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/19 ~ 9/25	52.2 ▲ 2.1	▲ 13.3
		(TOCOM/中部)	9/25	53.7 ▲ 3.4	▲ 14.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	76.4 ▲ 0.3	▲ 12.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月27日のNYMEX市場WTI原油は米国エネルギー情報局(EIA)が、米国週間在庫統計で、原油在庫が前週比180万バレル減と、市場予想(同340万バレル増)に反して4週振りの減少だったことに加え、イラク北部クルド自治政府の動きなどもあって値上がりとなった。11月限の終値は、前日比0.26ドル高の52.14ドル、12月限の終値は前日比0.24ドル高の52.43ドルだった。

EIAによると、9月25日時点のガソリンの小売価格は前週比5.1セント値下がりの1ガロン2.583ドル(77.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.3セント値下がりの2.788ドル

(83.5円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルも2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、9月17日～9月23日に休止したトッパー能力は10.0万バレル/日で、前週に対して横這いであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は356.4万klと、前週に比べ1.5万kl減少。前年に対しては14.1万klの増加。トッパー稼働率は91%と前週に対して0.4ポイントの減少、前年に対しては10.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.3%増、ジェット/13.1%減、灯油/5.3%増、軽油/10.7%増、A重油/11.9%減、C重油/9.0%減。今週のC重油の輸入は0.4万kl(前週比±0.0万kl)。軽油の輸出は11.4万kl(前週比12.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、軽油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンの出荷は97.7万kl(対前週9.2%増)と2週連続で前週比で増加、3週振りで前年比で増加となり、3週連続で100万klを下回った。

ジェット12.6万kl(対前週14.1%増)、灯油15.3万kl

(対前週24.6%増)、軽油59.2万kl(対前週1.3%減)、A重油17.1万kl(対前週16.2%減)、C重油13.8万kl(対前週22.7%減)。

(単位:千KL)

	今週 (9/17 ~ 9/23)	前週 (9/10 ~ 9/16)	前週比	
ガソリン	977	895	▲ 82	(9%)
ジェット燃料	126	110	▲ 16	(15%)
灯油	153	123	▲ 30	(24%)
軽油	592	599	▼ -7	(-1%)
A重油	171	205	▼ -34	(-17%)
C重油	138	178	▼ -40	(-22%)
合計	2,157	2,110	▲ 47	(2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月23日時点の在庫は、灯油、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは170.4万kl、前週差7.2万kl減。前年に対しては9.6万kl多い。

灯油は244.7万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては40.8万kl少ない。

軽油は152.7万kl、前週差11.8万kl増。前年に対しては6.1万kl少ない。

A重油は75.6万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては3.3万kl多い。

C重油は212.7万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては2.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (9/23)	前週 (9/16)	前週比	
ガソリン	1,704	1,776	▼ -72	(-4%)
ジェット燃料	1,010	1,026	▼ -16	(-2%)
灯油	2,447	2,378	▲ 69	(3%)
軽油	1,527	1,409	▲ 118	(8%)
A重油	756	770	▼ -14	(-2%)
C重油	2,127	2,102	▲ 25	(1%)
合計	9,571	9,461	▲ 110	(1.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月19日から25日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン105円台で堅調、軽油49～50円台で堅調、灯油50～51円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン107～108円台で堅調、軽油51～53円台で堅調、灯油49～51円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン106円台で堅調、軽油49円台で横ばい、灯油50～53円台で堅調に推移した。元売の卸価格は、1.0～1.5円の値上げだった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月19日から25日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、陸上・海上・先物ともに全油種で、値上りした。

10月第1週(9月28日～10月4日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月19日～25日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.1円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.5円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油が0.7円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替の円安が加わり、原油コストは値上がりだった。

10月第1週の大手元売の卸価格は、1.5～2.0円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/19 ~ 9/25)	前週 (9/12 ~ 9/15)	前週比
	レギュラー	51.8	50.7
灯油	51.1	49.4	▲ 1.7
軽油	50.1	48.9	▲ 1.2

[期近物/終値] [平均]	今週 (9/19 ~ 9/25)	前週 (9/12 ~ 9/15)	前週比
	レギュラー	52.8	51.3
灯油	52.2	50.1	▲ 2.1
軽油	49.0	48.3	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.1	▲ 1.5	▲ 1.3
灯油	▲ 1.7	▲ 2.1	▲ 1.9
軽油	▲ 1.2	▲ 0.7	▲ 1.0
A重油	▲ 0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

9月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円高の132.3円、軽油は同0.7円高の111.1円、灯油は同0.3円高の76.4円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は6カ月振りの値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは42都府県、横ばいは1県、値下がり4道県、全国最安値は埼玉県(127.2円(同0.1円安)、次が新潟県の129.2円(同0.2円高)、最高値は沖縄県の141.9円(同1.4円高)だった。最も値上がりしたのは、1.9円高の宮城県(131.3円)、最も値下がりは、0.3円安の神奈川県(129.6円)・鳥取県(129.9円)、横ばいは、高知県(136.0円)だった。

原油コストは値上がりし、2週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、1.5～2.0円の値上げとなった。次週(10月2日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/25)	前週 (9/19)	前週比	直近高値	
	レギュラー	132.3	131.6	▲ 0.7	08/8/4
灯油	76.4	76.1	▲ 0.3	08/8/11	132.1
軽油	111.1	110.4	▲ 0.7	08/8/4	167.4

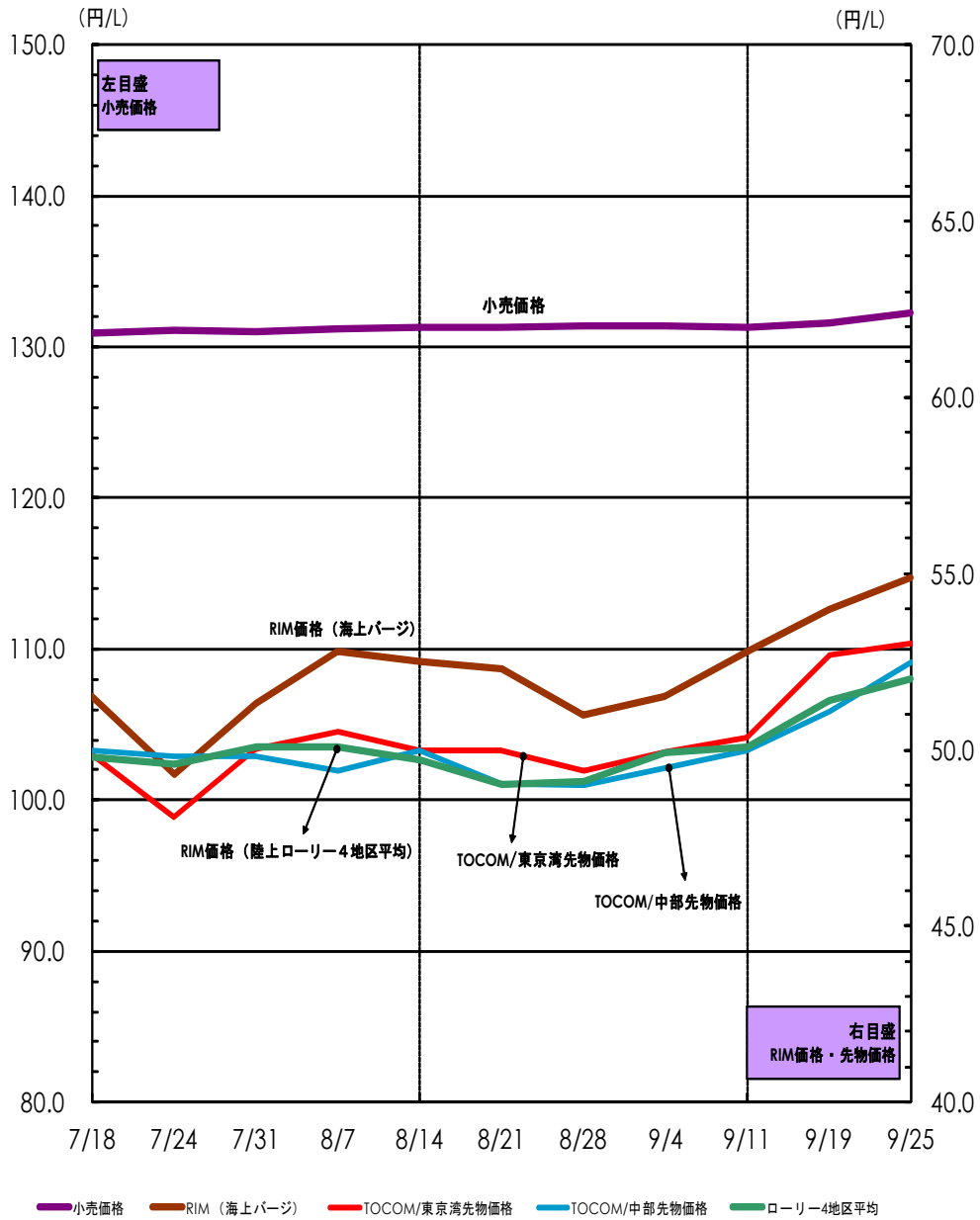
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/7/18 ~ 2017/9/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第25号)の公表は、10/6(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。